

## 基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (1) 公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます

### 【基本的方向】

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

### 【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	高校の授業料無償化等 (公立高等学校授業料無償化の実施<参考資料 P143>) (私立高等学校等生徒授業料支援補助金<参考資料 P143>) (公立高校生等奨学給付金事業<参考資料 P143>) (私立高校生等奨学給付金事業<参考資料 P143>)	公立高等学校については授業料不徴収制度及び就学支援金制度を実施するとともに、私立高校等については授業料無償化制度を実施した。 平成 26 年度入学の新 1 年生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
	奨学金制度の運営・運用 (公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業 <参考資料 P144>)	(公財)大阪府育英会における奨学金事業について、中学生や教職員に対して制度を周知するとともに、給付型奨学金の事業資金の確保のため寄附金を募集した。
②	府立高校における広報活動の充実 (広報強化推進事業<参考資料 P145>)	各府立高校において、学校説明会を実施するとともに、府教育委員会では、大阪府内全ての公立高校を集めた進学フェアを開催した。
	府立高校における広報活動の充実 (「公立高校ガイド」の作成<参考資料 P145>) (高校入試情報提供事業<参考資料 P145>)	府内全公立高校の情報を掲載した「公立高校ガイド」を府内全中学 3 年生に配付するとともに、学校情報を web で検索できる「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ (咲くなび)」を運用した。
	私立学校における学校情報の公表・公開 (<参考資料 P146>)	情報を公表していない学校については、経常費補助金を減額して配分した。

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
③	英語コミュニケーション能力の育成 (骨太の英語力養成事業<参考資料 P147~P148>) (英語教育推進事業<参考資料 P147~P148>)	高校3年間で、英語4技能(聞く・話す・読む・書く)を、英語圏の大学で修学できるレベルに引き上げるため、平成27年度または28年度から府立高校17校で導入するTOEFL iBTを扱った授業に向け、SET(スーパーイングリッシュティーチャー)の採用やシラバスの作成を行った。 また、英語力の底上げのため、在籍校によらないオール大阪の視点で、意欲ある生徒に対する「聞く・話す」能力の鍛錬を行うとともに、英語科教員の指導力を高めるプログラムを実施した。
	キャリア教育の充実 (キャリア教育支援体制整備事業<参考資料 P149>)	就職希望者が多い学校(平成26年度 府立36校、私立5校)を支援するため、就職内定率向上に実績のある「就職支援コーディネーター」等を配置し、生徒一人ひとりの状況を踏まえたキャリア教育を実践した。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績 (計画策定時)	H26年度実績	点検結果
○指標7 昼間の高校への進学率	計画進学率をめざす (93.9%)	93.1% (H25年度選抜)	93.4% (H27年度選抜)  [H25年度実績 92.9% (H26年度選抜)]	○  平成26年度実績は、計画策定時の実績より0.3ポイント上回った。
○指標8 学校情報の公表状況	いずれについても100%をめざす	府立高校 財務情報 100% 学校教育自己診断 83.8% 学校協議会 87.0%	府立高校 財務情報 100% (注) 学校教育自己診断 85.7% 学校協議会 97.4%  ( H25年度実績 学校教育自己診断 83.1% 学校協議会 90.9% )	△  平成26年度実績は、いずれも計画策定時の実績を上回った。 (学校教育自己診断 1.9ポイント増 学校協議会 10.4ポイント増)

(注) 財務情報については、平成25年度実績を記載(平成27年秋頃公表予定)。

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績 (計画策定時)	H26 年度実績	点検結果
○指標 8 学校情報の公表状況	いずれについても 100%を めざす	私立高校 財務情報 78.1% 自己評価 74.0% 学校関係者評価 49.0%	H25 年度実績 私立高校 財務情報 81.3% 自己評価 65.6% 学校関係者評価 53.1%  ※H26 年度実績は H27 年秋以降に公表予定	△ (注1)  平成 25 年度実績は、財務情報及び 学校関係者評価については、計画 策定時の実績をそれぞれ 3.2 ポイ ント、4.1 ポイント上回ったが、自 己評価については、計画策定時の 実績を 8.4 ポイント下回った。
○指標 9 府立高校 3 年生のうち英検 準 2 級相当以上の割合	30%をめざす	25.8%	27.2%  [H25 年度実績 28.2%]	○  平成 26 年度実績は、計画策定時の 実績より 1.4 ポイント上回った。
○指標 10 ・府立高校の英語教員のう ち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有 する割合	60%をめざす	42.5%	48.6%  [H25 年度実績 43.3%]	○  平成 26 年度実績は、計画策定時の 実績を 6.1 ポイント上回った。
・府立高校の英語教員のう ち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点(SW含む)、 IELTS 6.5 以上を保有する割 合 (注2)	20%をめざす	—	14.0%	—
○指標 11 公立・私立高校卒業者の就職 率(就職者の就職希望者に対 する割合)	全国水準をめざす	93.3% (全国：95.8%)	94.7% (全国：97.5%)  [H25 年度実績 93.0% (全国：96.6%)]	△  平成 26 年度実績は、計画策定時の 実績より 1.4 ポイント上回ったが、 全国平均との差は 2.5 ポイントか ら 2.8 ポイントに拡大した。

(注1) 目標に対する平成 25 年度実績の進捗状況を記載。

(注2) 平成 26 年度より、英語力の底上げのため、短期集中研修など英語科教員の指導力を高める事業を実施していることから、教員の英語力を測る指標を新たに設けた。

## 【自己評価】

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
  - ・高校の授業料無償化や奨学金制度により、公私を問わず自由に学校選択できる機会を提供し、昼間の高校への進学率が計画策定時に比べて上昇するとともに、私立高校へ進学する割合も無償化制度導入前と比べて増加した。
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
  - ・府立高校については、「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ（咲くなび）」の運用など広報活動に取り組んだ結果、学校教育自己診断及び学校協議会について公表した学校の割合は増加しているものの、学校教育自己診断を公表した学校の割合が伸び悩んでいることから、目標達成に向け未公表の学校に対する個別の指導を強化する。
  - ・私立高校については、情報未公表の場合は、私立高校に対する経常費補助金の配分において減額要素としており、各私立学校での情報の公表が進んだ。なお、平成 25 年度の学校評価については開示内容を精査し、不十分な学校は未公表に区分した結果、自己評価の公表状況は下がった。引き続き、学校情報の公表に努めるよう働きかけていく。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中であって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。
  - ・英語教育については、公私ともに様々な学校から、英語の技能を伸ばしたいという意欲ある生徒が参加する特訓クラスや、「オールイングリッシュ」で行う授業のノウハウを学ぶ教員向けの短期集中教員研修を実施し、府立高校 3 年生のうち英検準 2 級相当以上の割合は、目標値の 30% に近づいている。また、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する府立高校の英語教員の割合も確実に伸びており、生徒の英語力の底上げのために必要な英語科教員の英語力が確認できた。
  - ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が上昇傾向にあるが、全国平均に比べると依然、低位にある。しかし、平成 26 年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」において、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した支援校で、26 年度の就職内定率が前年度と比較して 5.9 ポイント向上するなど一定の成果を上げており、引き続き、就職支援コーディネーター等と連携し、支援校における校内体制の強化を図り、キャリア教育の充実に努めていく。

## 【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は、概ね妥当である。

## 【基本的方向②について】

- ・「府立高校における学校情報の公表状況（指標8）」については、府教育委員会が全国に先駆けて学校教育自己診断に取り組んできたことを踏まえると、その公表が未だに目標値の100%に達していないことは非常に残念である。学校情報の公表が出来ていない原因をきちんと分析し、学校を指導することで平成27年度には目標を達成すべきである。また、単に情報を公表するだけでなく、各学校が学校教育自己診断等の内容を分析し、学校改善に結び付け、それを公表していくというPDCAサイクルをしっかりと回していくことも必要である。
- ・「私立高校における学校情報の公表状況（指標8）」について、府が私立高校の公表内容を精査したことにより、結果としてやや数値は下がったものの、PDCAサイクルを回す上で非常に良い取り組みであり、評価できる。今後、公表状況を上げていくために、公表することが学校経営のアピールポイントになり、学校の質・教員のモチベーションの向上につながることを私立高校に示す必要がある。

## 【基本的方向③について】

- ・キャリア教育や英語教育など、公私が情報を共有しながら切磋琢磨して高校の教育力向上に努めていることは、大阪の特色として大変評価できる。引き続き、公私間で互いのノウハウや成功事例の共有化に取り組みながら、その成果を府民に示していく必要がある。
- ・グローバル社会で活躍できる人材の育成については、「府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の割合（指標9）」や「府立高校の英語教員のうち、英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する割合（指標10）」が伸びていることから、目標達成が可能という評価は妥当であるが、府立高校全体の平均値のみの評価にとどまらず、成果を上げている学校のノウハウや成功事例を広く全体に普及させていくことが必要である。

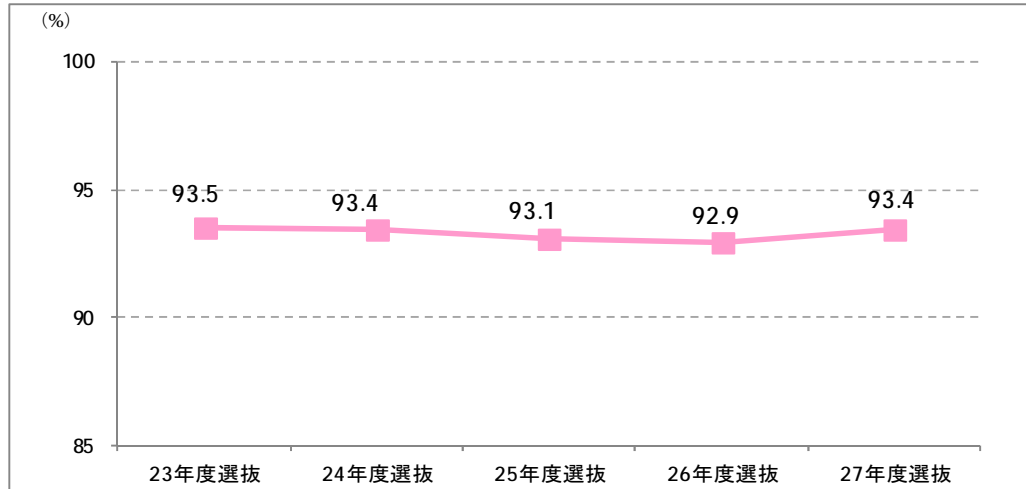
○補足意見

## 【基本的方向②について】

- ・学校情報の公表に当たり、例えば、学校教育自己診断の中に府が特色として取り組んできたことの進捗状況や更なる強化方策を問う設問を加えてはどうか。そうすることで、評価の視点が明確になり、保護者や地域の人など評価する側の関心も高まる。

(参考)

◆指標7 昼間の高校への進学率

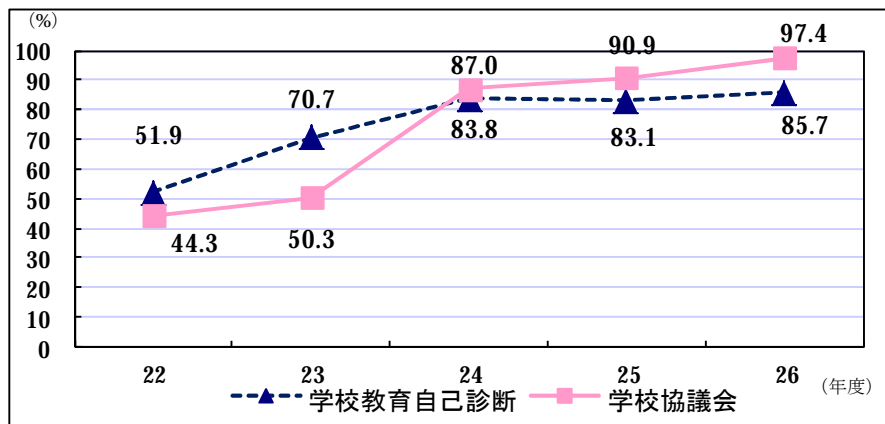


※府教育委員会調べ

※27年度選抜…H26年度に実施したH27年度入学者の選抜

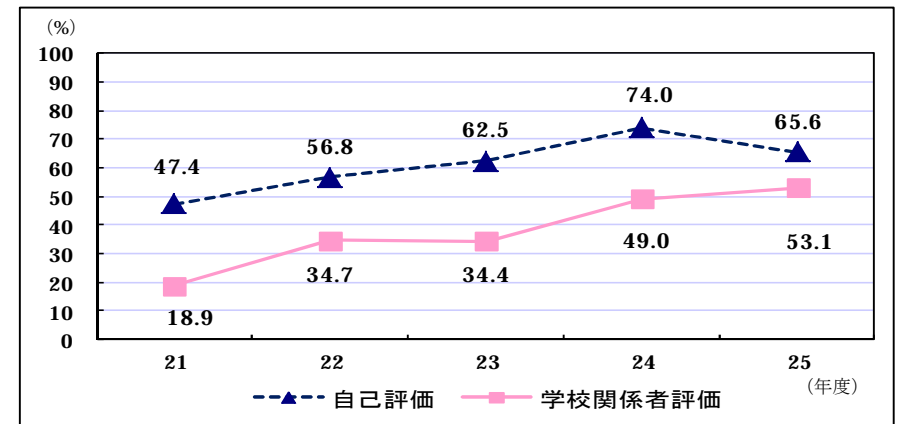
◆指標8 学校情報の公表状況

府立高校における学校情報の公表状況



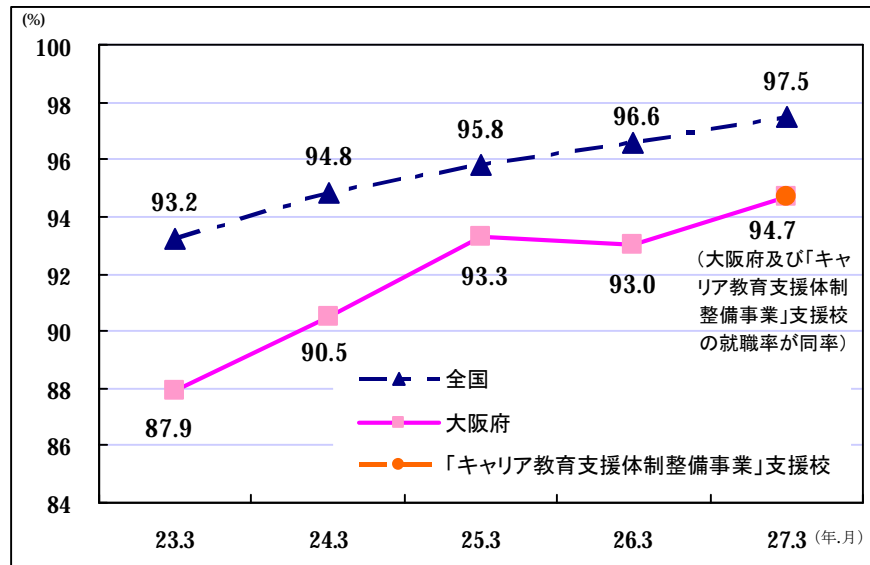
※府教育委員会調べ

私立高校における学校情報の公表状況



※府民文化部調べ

◆指標 11 公立・私立高校卒業者の就職率  
 (就職者の就職希望者に対する割合)



※府教育委員会調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」

※「キャリア教育支援体制整備事業」支援校：

支援校 41 校（府立高校 36 校、私立高校 5 校 ※H26 年度）